

授業概要

本科目は、人間学部人間文化学科の言語・コミュニケーション科目群に配置される、3・4年次の配当科目である。そこで、まず高等学校まででは扱わない古典作品、具体的には『蒙求和歌』という作品を読んでみることにしたい。『源氏物語』の研究者でもあった源光行の手になる、中国の故事を集成した『蒙求』という作品を基にした和歌集といえる作品である。そこでは、中国の故事をどのように解釈し、本来相容れない和歌の文脈の中にどのように詠み込んでいるのかを見ていくことにしたい。さらに、その解釈が『源氏物語』の理解にどのように関わっていったのかまで言及できればと考えている。

授業計画

第 1 回	導入 幼学書について
第 2 回	『蒙求』と『蒙求和歌』について
第 3 回	源光行について
第 4 回	『蒙求和歌』の序文と跋文
第 5 回	『蒙求和歌』の部立について
第 6 回	四季部の注と和歌について 春・夏
第 7 回	四季部の注と和歌について 秋・冬
第 8 回	恋部の注と和歌について
第 9 回	恋部の注と和歌について
第 10 回	『李嶠百詠』について
第 11 回	『李嶠百詠』と『百詠和歌』について
第 12 回	『蒙求和歌』の序文と跋文、『百詠和歌』の序文と跋文について
第 13 回	『源氏物語』の注釈との関わりについて
第 14 回	中国と日本の故事の往還について
第 15 回	まとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

中国の故事が、日本文学の伝統と密接に結びつきつつ読み替えられていくというダイナミックな関係性を実感してもらえることを目標としたい。

履修上の注意

日本文学入門や日本文学史概論（古典）は事前に履修しており、日本文学講読（古典）Ⅰ又はⅡは、事前又は同時に履修していることが望ましい。事前に大学の図書館、近隣の図書館を利用して資料を見る習慣をつけてもらえればありがたい。

予習・復習

やや難解な説明を含むこととなるのでプリントを事前に配布して予習を可能にすると同時に、できるだけ内容の理解に役立つ資料を事前に提示することができるようになりたい。途中で一度復習テストの実施を考えている。

評価方法

ほぼ、定期試験および小テスト（80%）、受講態度（20%）の割合で、総合的に評価する。

テキスト

特に指定しない。必要に応じて資料を授業の中で配布する。参考文献は授業中に指示することがあるので、興味のある人は参照してもらいたい。